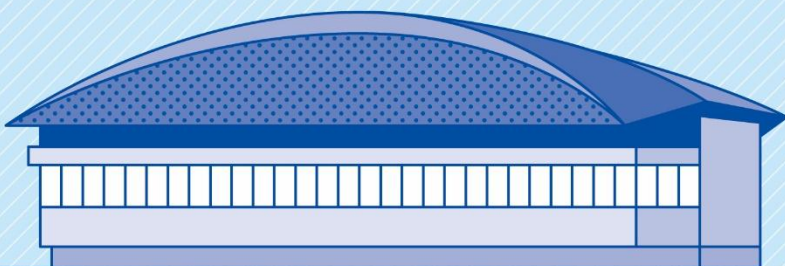




# 第5次 豊田市 生涯スポーツプラン

2026年度 ▶ 2030年度



豊田市



## 目 次

第1章	プランの策定にあたって .....	1
1	プラン策定の目的 .....	2
2	スポーツを取り巻く環境変化 .....	3
3	これまでの主な取組と課題 .....	9
第2章	プランの基本的な考え方 .....	25
1	スポーツの定義 .....	26
2	プランの位置付け・期間 .....	27
3	目指す姿 .....	28
4	基本方針 .....	28
5	基本施策 .....	29
6	重点プロジェクト .....	30
7	スポーツ施設整備に関する考え方と方向性 .....	33
8	「する」「楽しむ」「支える」スポーツの一体的推進 .....	35
第3章	基本施策の展開 .....	37
1	「する」スポーツ .....	38
2	「楽しむ」スポーツ .....	44
3	「支える」スポーツ .....	50
4	プラン体系 .....	56
第4章	プランの推進体制と進捗管理 .....	59
1	推進体制 .....	60
2	進捗管理 .....	61
資料編	.....	63
1	第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けたプロセス .....	64
2	豊田市スポーツ推進審議会委員名簿 .....	66



# 第 1 章 プランの策定にあたって

- 1 プラン策定の目的
- 2 スポーツを取り巻く環境変化
- 3 これまでの主な取組と課題

# 第1章 プランの策定にあたって

## 1 プラン策定の目的

- スポーツは、心身の健全な発達、目標や夢の形成、健康増進、生きがいづくり、地域経済の活性化、地域の一体感の醸成、多様性の理解等、私たちの暮らしや人生を豊かにする多様な価値を有しています。
- 本市では、こうしたスポーツの持つ価値を広く市民に提供し、「生涯スポーツ社会」の実現を目指すため、2001年3月に「豊田市生涯スポーツプラン」を策定しました。
- 2022年3月に策定した「第4次豊田市生涯スポーツプラン」では、「スポーツを『する』機会の拡充」「スポーツを『楽しむ』風土の醸成」「スポーツを『支える』体制強化と人材の育成・活用」という3つの施策の柱を掲げ、施策を推進してきました。
- また、本市では、2025年3月に「第9次豊田市総合計画（ミライ構想・ミライ実現戦略2030）」を策定し、「こども起点」や「つながり合い」といった視点を大切にしながらまちづくりを進めています。
- 一方で、昨今の社会情勢に目を向けると、少子高齢化の進行、熱中症リスクの増大、デジタル化の進展、地域コミュニティの希薄化、ライフスタイルの多様化等、スポーツを取り巻く環境は急速に変化しています。
- こうした社会情勢の変化や、「第9次豊田市総合計画」の方向性、これまでのスポーツ施策の推進状況を踏まえ、本市スポーツ行政をより計画的かつ効果的に推進していくため、「第5次豊田市生涯スポーツプラン」を策定しました。

## 2 スポーツを取り巻く環境変化

### (1) 社会情勢の変化

#### ア 世代に応じたスポーツ活動の推進

- 出生数が全国的に減少傾向である一方で、日本人の健康寿命は世界最高水準となっています。
- こうした社会情勢のもと、こどもから高齢者まで、それぞれのライフステージに応じてスポーツに親しむことの重要性が高まっています。
- こどもの時期にスポーツに触れることは、基礎的な体力や運動能力の向上に加え、健康的な生活習慣を意識するきっかけとなり、生涯にわたりスポーツに親しむ土台となります。
- また、高齢者が仲間とスポーツを楽しむことは、健康や認知機能の維持、体力の向上、コミュニティの形成等につながります。
- 本市においても、こどもから高齢者まで誰もがスポーツに親しめる機会や環境を提供し、生涯スポーツを推進していく必要があります。

#### イ スポーツを通じた地域共生社会の実現

- 「地域共生社会」とは、地域に暮らす人々が、年齢、性別、障がいの有無等の違いを超えて、互いを尊重し、支え合いながら共に生きる社会のことです。
- 価値観が多様化する一方、コミュニティが希薄化している現代においては、「地域共生社会」の考え方を踏まえたまちづくりが重要となります。
- スポーツは、年齢、性別、障がいの有無や言語・文化の壁を超えて人々をつなぎ、互いの価値観を理解し合う機会を提供します。本市においても、こうしたスポーツの持つ力をまちづくりに生かしていく必要があります。

#### ウ スポーツを通じた地域振興（スポーツツーリズム<sup>※</sup>の推進）

- 2011年に観光庁が「スポーツツーリズム推進基本方針」を策定して以降、自治体においても、スポーツを契機とした消費行動の促進に向けた取組が進められています。
- 本市は、大規模スポーツイベント・大会が開催可能なスポーツ施設、アウトドアスポーツに適した豊かな自然環境、本市ゆかりのトップスポーツチーム等、豊富なスポーツ資源を有しており、それらの強みを生かした更なる取組が必要です。
- 具体的には、規模を問わず、「みる」スポーツ、「する」スポーツのイベント（大会、合宿を含む）の誘致を進めるとともに、観戦客、主催者、出場者等、スポーツを契機とした来訪者の消費行動を促進し、地域振興につなげていきます。

※大規模スポーツイベントや大会の開催等を通じ、市内の宿泊・飲食を中心に消費喚起を図ること

## エ 国連サミットにおける SDGs（持続可能な開発目標）の採択

- 2015 年 9 月の国連サミットにおいて、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）が採択されました。
- 本市では、2018 年 6 月に持続可能な開発目標達成に向けた取組を先導的に進めていく自治体「SDGs 未来都市」として内閣府に選定されました。
- スポーツにおいては、SDGs の 17 の目標のうち、「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の 4 つの目標が深く関連します。
- また、本市では、「市民の心の豊かさ」に焦点を当てた独自の横断的な目標（とよたローカルゴール）として、「L1 こどものミライに夢と希望を」「L2 地域に愛着と誇りを」を新たに設定しており、この 2 つの目標もスポーツを通じたまちづくりに深く関連します。



## オ ICT等の先端技術を活用した新たなスポーツの楽しみ方

- ICT等の技術革新により、人々の働き方やライフスタイルが変化しており、健康管理や教育等あらゆる分野での活用が期待されています。
- スポーツにおいては、パブリックビューイングや施設の予約システム、eスポーツ等での活用が進んでおり、本市においても、スポーツの楽しみ方の選択肢の一つとして、活用方法を検討していく必要があります。

## カ コロナ禍による「スポーツの持つ価値」の再認識

- コロナ禍においては、全国的にスポーツ施設の利用制限やスポーツイベントの延期・中止等の対応がとられました。
- 外出を自粛する人が増えたことで、運動不足やストレスによる心身への悪影響が顕在化し、日頃当たり前に行ってきたスポーツの持つ価値が改めて認識されました。
- 今後は、コロナ禍で得た知見や経験を生かして、市民が継続的にスポーツに参加できる取組を進める必要があります。

## キ 安全にスポーツを楽しむための環境づくり

- 気候変動により国内において最高気温が40℃を超える日が増加し、本市においても猛暑日が年々増加傾向となっています。
- 2025年6月に改正されたスポーツ基本法では「国及び地方公共団体は気候変動への対応に特に留意しなければならない」と明記され、気候変動がもたらすリスクを踏まえた安全・安心なスポーツ環境の整備が現代社会における重要な課題となっています。

## (2) 国や県の動向

### ア スポーツ基本法の改正

- スポーツに関する基本理念や、国及び地方公共団体の責務等を定めたスポーツ基本法が2025年6月に改正されました。
- 新たに、人種や性別、年齢、障がいの有無にかかわらず、誰もがスポーツに親しめる環境の整備、公立中学校の部活動改革、eスポーツ等の情報通信技術の活用によるスポーツの推進等が盛り込まれました。

### イ スポーツ基本計画の策定

- スポーツ庁は、2022年3月に第3期スポーツ基本計画を策定しました。
- 第3期スポーツ基本計画では、①スポーツを「つくる／はぐくむ」、②スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、③スポーツに「誰もがアクセスできる」というスポーツに関わる新たな視点が加えられました。

### ウ スポーツ実施率向上のための行動計画の策定

- スポーツ庁は、2018年9月に国民全体のスポーツ実施率向上に向けた新たなアプローチや、即効性のある取組をまとめた「スポーツ実施率向上のための行動計画」を策定しました。
- 国民全体に向けたスポーツ実施率向上の取組に加え、こども・若者、ビジネスパーソン、高齢者、女性、障がい者に焦点を当てた取組を推進しています。
- また、それぞれの対象において、「スポーツをする気にさせる施策」「スポーツをするために必要な施策」「スポーツを習慣化させるための施策」という段階別の視点が設定され、取組が示されています。

### エ 障害者活躍推進プランの策定

- 文部科学省は、障がい者が活躍できる場のより一層の拡大をめざし、2019年4月にスポーツや文化、生涯学習等の分野における障がい者施策をとりまとめた「障害者活躍推進プラン」を策定しました。
- 障がい者のスポーツへの参画を進めるためには、トップスポーツのためのスポーツ環境の整備だけではなく、障がいの有無に関わらず身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりが必要であるとされています。
- また、障がい者がスポーツに関心を持つ機会やスポーツをするきっかけを妨げない社会づくりを進めていくことが必要であると示されています。

## オ 少子化及び教員の働き方改革を踏まえた部活動改革

- 国は、中学生が将来にわたりスポーツや文化芸術活動に親しめる環境づくりと、教員の働き方改革を推進するため、これまで学校が担ってきた部活動を、地域主体の「地域クラブ活動」へと移行する方針を示しました。
- この方針を踏まえ、本市では、2025年3月に策定した「とよた地域クラブ活動展開プラン」に基づき、2026年9月に平日及び休日の部活動を「とよた地域クラブ活動」に移行させ、こども達のニーズに応じたスポーツ機会を引き続き提供していきます。

## カ 愛知県スポーツ推進計画 2023-2027

- 愛知県は、愛知県新体育館の開業や、2026年のアジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催といったプロジェクトを見据えた「愛知県スポーツ推進計画 2023-2027 ～スポーツがつなぐ愛知の未来～」を策定しました。
- アジア競技大会・アジアパラ競技大会を生かし、全ての人と一緒にスポーツを楽しみ、スポーツの力を生かして、豊かで活力のある愛知を実現するための基本的な方向性を示しています。

## キ アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催

- 愛知県では、2026年9月から10月に第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会が開催され、本市も両大会の会場となります。
- 大会を通じてスポーツ振興や多文化理解、障がいへの理解や障がい者の社会参加の促進等様々な効果が期待されます。

### **(3) 本市行政計画**

#### **ア 第9次豊田市総合計画（ミライ実現戦略2030）【2025～29年度】**

- 総合計画は、市民と行政がともに取り組む、これからの豊田市のまちづくりの方向性を明らかにする最も基本となる計画です。
- 人口減少社会においても持続可能な都市として、若年層をはじめ広く人々にとって住みたい、関わりたいと思える魅力あるまちづくりを推進していきます。
- また、子どもが多様な生き方や暮らし方を選択できる環境を整えるとともに、地域のつながりを通じて誰もが安心して自分らしく暮らせる社会を目指します。

#### **イ とよた地域クラブ活動展開プラン【2025～31年度】**

- 学校の部活動から地域クラブ活動に移行するにあたり、子どもが幅広い活動機会を得ることができるように地域展開の方向性を示しています。
- 地域ぐるみでスポーツや文化芸術活動の環境を整えることで、希薄になりつつある地域の人々とのつながりや地域への愛着を醸成していきます。

#### **ウ 第5次豊田市障がい者ライフサポートプラン【2021～26年度】**

- 近年の障がい者の高齢化や重度化に対応し、障がいの理解・啓発に関する取組や生活環境整備等の施策を進め、障がい福祉の一層の充実を図っていきます。
- 障がい者が自らの個性を生かし、多様な文化活動やスポーツ活動等に参加できる環境づくりを推進していきます。

#### **エ 健康づくり豊田21計画（第四次）【2024～29年度】**

- 健康増進計画、食育推進計画、自殺対策計画の3つの計画を一体的に策定し、市民の健康増進等の推進に関連する施策を展開していきます。
- 健康寿命の延伸や健康づくりに取り組む市民の増加を目指し、まちぐるみでの健康づくりを推進していきます。

#### **オ 第9期豊田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画【2024～26年度】**

- 「おもいやりのまち」の実現に向け、高齢者保健福祉施策や介護保険サービスの充実を図っていきます。
- 介護予防・健康づくりのための高齢者の社会参加や交流の促進、安心して生きられる支えあいのまちづくりのための施策を展開していきます。

#### **カ 豊田市観光実践計画【2025～29年度】**

- 本市の観光を取り巻く環境の変化を捉え、先手を打つ取組を地域一体となって進めていくため、これまでの振り返りを生かしながら観光の方向性を示しています。
- 本市の強みを活かした戦略的な観光振興を掲げ、スポーツイベント等で来訪した観光客の市内周遊や滞在による地域内消費の拡大を促進するスポーツツーリズムの推進に取り組んでいきます。

#### **キ 豊田市公共建築物個別施設計画【2025～34年度】**

- ニーズ等に応じた機能と適正な配置、安全性の確保をはじめとした施設の管理、効率的で質の高いサービスの提供の視点で、公共建築物の最適化の取組を進めます。

### 3 これまでの主な取組と課題

#### (1) これまでの主な取組

本市では、第4次豊田市生涯スポーツプラン（2022年度～2025年度）の期間、「する」スポーツ、「楽しむ」スポーツ、「支える」スポーツの一体的推進に向けて、以下の取組を実施してきました。

#### ア 「する」スポーツに関する取組

##### ■企業や大学等と連携したこどものスポーツ機会の創出

市内の企業や大学等と連携し、こどものスポーツ機会の創出に向けた取組を実施しました。

連携事業の内容	2022年度	2023年度	2024年度
オリンピックによる「走り方教室」	53校	54校	66校
トヨタヴェルブリッツ「タグラグビー教室」	-	29校	35校
名古屋グランパスボールクリニック	90園	96園	94園
	58校	53校	62校
トヨタレッドテリアーズ「投げ方教室」	-	26校	30校
トヨタ自動車硬式野球部「投げ方教室」	-	14校	29校
パラアスリートによる「特別授業」	-	30校	32校



##### ■豊田マラソン大会の開催

日頃の練習成果を発揮する場としてマラソン大会を開催し、スポーツ習慣の形成を図りました。

##### 【実績】

2023年度:6,021人

2024年度:6,213人

2025年度:5,766人



## ■ 部活動の地域展開に向けた取組

関係者との意見交換を重ね、本市における部活動の地域展開プランを策定しました。本プランに基づき、2026年9月に「とよた地域クラブ活動」を展開していきます。

年度	主な取組
2021年度	・市内4校で地域指導者と連携した休日部活動のモデル事業を実施
2022年度	・モデル事業を6校に拡大 ・シンポジウムの開催 ・豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会の設置
2023年度	・市内28校（全校）で地域指導者と連携した休日部活動を実施 ・こども・保護者向け実態・ニーズ調査の実施、関係団体等へのヒアリング ・地域移行プラン骨子（案）作成
2024年度	・豊田市地域指導者人材バンクの設置 ・研修プログラムの作成、運用開始 ・とよた地域クラブ活動展開プランの完成
2025年度	・専門部署の新設、関係団体からの出向者受入れ等による体制強化 ・市内28校（全校）での地域指導者と連携した平日部活動の実施 ・市職員の配置等による地域学校共働本部の環境整備 ・とよた地域クラブ活動ガイドラインの策定

## ■ 健康増進に向けた取組

地域スポーツクラブと連携し、ウォーキング事業や健康増進教室を開催しました。

連携事業の内容	2022年度	2023年度	2024年度
ウォーキング事業	13事業 2,228人	22事業 3,171人	27事業 2,877人
健康増進教室	91教室 45,585人	108教室 46,607人	126教室 56,111人

## ■ パラスポーツ体験会の開催

広く市民に向けてパラスポーツに親しむきっかけを提供し、更なる普及促進を図るため、様々なパラスポーツ競技が楽しめるイベントを開催しました。

<b>【実績】</b>	
2024年度：実施種目数	6種目
参加人数	308人
2025年度：実施種目数	7種目
参加人数	259人



## イ 「楽しむ」スポーツに関する取組

### ■わがまちアスリートの応援と情報発信

世界大会出場を目指す「豊田市わがまちアスリート」を応援するため、その活躍等を情報発信し、スポーツへの関心を高めました。特に 2024 年に開催されたパリ 2024 オリンピック・パラリンピック競技大会には、多くのわがまちアスリートが出演し、その活躍を様々な形で応援するプロジェクトを実施しました。

#### 【主な取組】

- ・わがまちアスリート認定
- ・パリ 2024 競技大会出場者への応援プロジェクトの実施
- ・パリ 2024 競技大会のパブリックビューイングの実施

#### 【実績】

わがまちアスリート認定人数（2024 年度）：11 人

わがまちアスリート認定人数（2024 年度までの累計）：47 人、1 団体



### ■夢の教室の開催

本市ゆかりのアスリート等を「夢先生」として小・中学校へ派遣し、夢を持つことの素晴らしさや努力する大切さをこども達に伝えました。

年度	実績
2022 年度	小学校 59 校、113 クラス
2023 年度	小学校 65 校、135 クラス 中学校 6 校、14 クラス
2024 年度	小学校 65 校、133 クラス 中学校 8 校、24 クラス



## ■ 豊田スタジアム、スカイホール豊田でのトップスポーツの誘致・開催

豊田スタジアムにおいては、Jリーグ、リーグワン、世界ラリー選手権、サッカー・ラグビーの国際試合等を開催しました。また、スカイホール豊田では、Bリーグ、Vリーグ、日本ボッチャ選手権大会等を開催しました。

### <豊田スタジアム>

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
スポーツイベント・大会数	23 件	27 件	29 件
観客数	417,322 人	636,274 人	736,778 人

### <スカイホール豊田>

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
スポーツイベント・大会数	28 件	21 件	18 件
観客数	89,045 人	70,742 人	69,150 人

## ■ アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催機運醸成に向けた取組

2026 年 9 月～10 月に開催されるアジア競技大会・アジアパラ競技大会の機運醸成に向け、イベントでの PR 等を行いました。



## ■ ラリーをいかしたまちづくり

世界ラリー選手権や地方ラリー選手権等、モータースポーツ大会の誘致及び開催支援を行うとともに、地域の活性化等に向けた取組を行いました。

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
ラリー関連イベント開催回数	4 回	4 回	3 回
ラリー関連イベント来場者数	563,600 人	560,200 人	540,000 人
経済波及効果（総額）	126 億 3,200 万円	156 億 6,400 万円	133 億 2,500 万円



## ウ 「支える」スポーツに関する取組

### ■小・中学校体育館・武道場への空調設備の整備

熱中症対策として2024～2025年度に、市内すべての小・中学校の体育館及び武道場（102校127施設）に空調設備を設置し、安全・安心で快適な教育環境・スポーツ環境を整備しました。



### ■「とよた地域クラブ活動」における地域指導者の確保

2026年9月の「とよた地域クラブ活動」への移行に向け、「豊田市地域指導者人材バンク」を創設し、地域指導者の確保に取り組みました。

#### 【実績】

とよた地域クラブ活動の地域指導者登録数  
696人（2024年度末時点）



### ■スポーツボランティアとよたの活動支援

ラグビーワールドカップ2019™のレガシーとして、2020年度に「スポーツボランティアとよた」を立ち上げました。年々登録者数を増やし、市内の様々なスポーツイベント等を支えています。

	2022年度	2023年度	2024年度
登録者数	1,150人	1,374人	2,989人
活動回数	34回	26回	35回



## ■スポーツ推進委員と連携した取組

スポーツ推進委員の指導力向上に向けた研修会を開催したほか、各地域でこどもや高齢者向けに、コーディネーショントレーニングをはじめとした教室やイベント等を実施しました。



## ■アジア競技大会・アジアパラ競技大会に向けた施設改修

アジア競技大会の会場となる豊田スタジアムで、2025年度にトイレの洋式化工事を実施し、8割のトイレを洋式化しました。また、アジア競技大会・アジアパラ競技大会の会場となるスカイホール豊田で、2024年度にLED化改修工事を、2025年度に観客席のWi-Fi環境の整備を実施しました。

アジア競技大会・アジアパラ競技大会開催後も、高水準の設備を備える2施設を活用し、国際大会や全国大会を誘致していきます。

## ■中央公園スポーツパークの整備

2026年9月に、人工芝グラウンド2面を備えた中央公園スポーツパークが開業します。当該施設は豊田スタジアムの東側に隣接しているため、豊田スタジアムとの一体利用も含め、大会等を誘致し、市民利用はもちろん、スポーツツーリズムの推進にも活用していきます。

<中央公園スポーツパーク完成イメージ図>



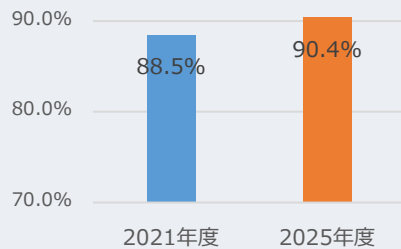
## (2) 課題

### ア こどもの「する」スポーツの推進

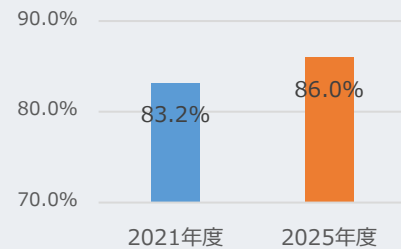
#### 現状

運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒の割合は高くなっています。

運動・スポーツをすることが好きな小学5年生の割合



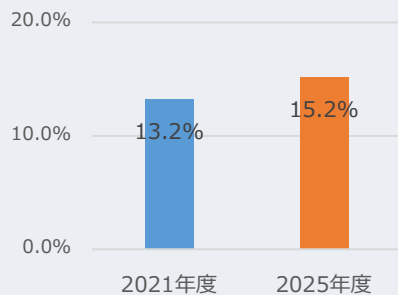
運動・スポーツをすることが好きな中学2年生の割合



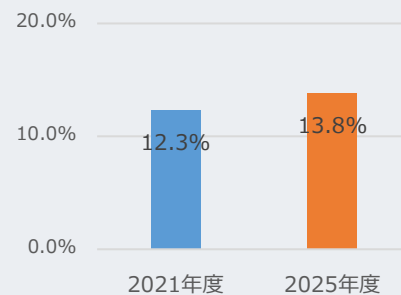
出典：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（2021年度、2025年度）

1週間の総運動量が60分未満の児童・生徒の割合は高くなっています。

1週間の総運動量が60分未満の小学5年生の割合



1週間の総運動量が60分未満の中学2年生の割合



出典：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（2021年度、2025年度）

#### 課題

運動やスポーツが好きなこどもの割合は高くなっている一方で、スポーツ実施率は低下傾向にあります。スポーツが好きでも、機会や環境が十分でないことが要因として考えられます。そのため、スポーツが好きなこどもが今以上にスポーツに取り組めるよう、多様なスポーツ機会を提供するとともに、身近な場所で気軽にスポーツに取り組める環境を整備していくことが必要となります。

## イ 成人の「する」スポーツの推進

### 現状

週1回以上スポーツを実施する成人の割合はやや減少しています。

#### 週1回以上スポーツを実施する成人の割合

2019年 55.7%  2024年 53.0%

出典：「豊田市の教育に関するアンケート調査」（2019年度、2024年度）

スポーツをしない理由では、20代～60代前半では「仕事・家事・育児が忙しくて時間がない」が最も多く、60代後半以降では、「年を取ったため」が最も多くなっており、年代によってスポーツをしない理由は異なります。

#### <スポーツをしない理由（複数回答可）>

	仕事・家事・育児で時間がないため	体が弱いため	年をとったため	場所や施設がないため	仲間がないため	指導者がいないため	お金がかかるため	運動・スポーツは好きではないため	機会がなかったため	その他	特に理由はない
20歳未満	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%
20～29歳	52.4%	4.8%	4.8%	4.8%	9.5%	0.0%	4.8%	19.0%	19.0%	4.8%	4.8%
30～39歳	65.2%	0.0%	0.0%	4.3%	2.2%	0.0%	2.2%	15.2%	21.7%	4.3%	4.3%
40～49歳	60.7%	7.1%	8.9%	5.4%	10.7%	1.8%	25.0%	19.6%	25.0%	1.8%	1.8%
50～59歳	46.1%	2.6%	10.5%	5.3%	11.8%	2.6%	17.1%	17.1%	32.9%	3.9%	3.9%
60～64歳	38.2%	17.6%	20.6%	0.0%	2.9%	0.0%	11.8%	11.8%	11.8%	2.9%	2.9%
65～69歳	17.9%	10.7%	35.7%	10.7%	7.1%	0.0%	10.7%	21.4%	21.4%	0.0%	0.0%
70～74歳	14.7%	35.3%	55.9%	2.9%	8.8%	2.9%	2.9%	5.9%	17.6%	2.9%	2.9%
75歳以上	4.7%	20.0%	62.4%	2.4%	7.1%	0.0%	2.4%	5.9%	11.8%	8.2%	8.2%

出典：「豊田市の教育に関するアンケート調査」（2024年度）

### 課題

仕事・家事・育児等で自分の時間を確保しにくい働く世代・子育て世代や、加齢に伴う体力・健康面の不安からスポーツに取り組みづらくなった高齢世代等、スポーツを実施しない理由は世代ごとに異なります。こうした背景を踏まえ、各世代のニーズやスポーツに取り組む上での障壁を的確に把握し、ライフステージに応じた多様なスポーツ機会を提供していくことが必要です。

## ウ 障がい者の「する」スポーツの推進

### 現状

週1回以上スポーツを実施する障がい者の割合は16.0%となっており、国の目標40%程度と比べ低い水準にあります。

週1回以上スポーツを実施する障がい者の割合

16.0%

出典：障がい者等実態調査(2025年度)  
※余暇活動の状況から運動・スポーツのデータを抜粋して作成

年代別に見ると、18歳未満の約3割は週に1回以上スポーツを実施している一方で、18歳以上のスポーツ実施率は2割以下となっています。

週1回以上スポーツを実施する障がい者の割合

18歳未満	33.3%
18～39歳	15.5%
40～64歳	12.9%
65歳以上	14.5%

出典：障がい者等実態調査(2025年度)  
※余暇活動の状況から運動・スポーツのデータを抜粋して作成

今後スポーツをしたいと思っている障がい者の割合は17.1%となっています。

今後スポーツをしたいと思っている障がい者の割合

17.1%

出典：障がい者等実態調査(2025年度)  
※余暇活動の状況から運動・スポーツのデータを抜粋して作成

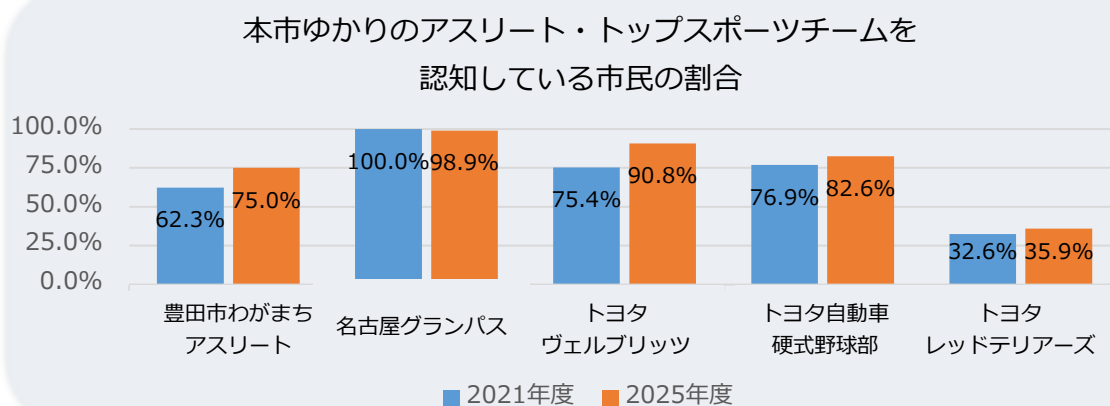
### 課題

障がい者の週1回以上のスポーツ実施率は国の目標値を下回っています。学校教育以降も障がい者がスポーツに親しめる環境の提供が必要です。また、「運動やスポーツをしたい」と思う人も一定数存在し、潜在的なニーズがあることが分かります。今後は関係団体との連携を強化し、誰もが安心して楽しめるスポーツ機会を拡充していく必要があります。

## エ 本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとの連携

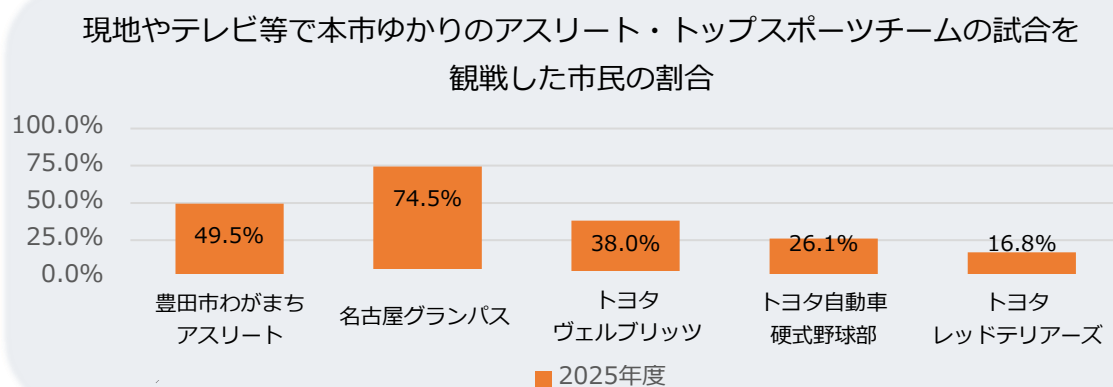
### 現状

本市ゆかりのアスリートやトップスポーツチームに関する市民の認知度については、名古屋グランパスが 98.9%でほとんどの市民に認知されています。また、豊田市わがまちアスリートやトヨタヴェルブリッツは 2021 年度から 10 ポイント以上大きく認知度を上げています。



出典：E モニター調査（2021 年度、2025 年度）

一方で、現地やテレビ等で本市ゆかりのアスリートやトップスポーツチームの試合を観戦した市民の割合は、認知度と比べ低い傾向にあります。



出典：E モニター調査（2025 年度）

### 課題

現在、本市ゆかりのアスリートやトップスポーツチームと連携した体験講座や交流イベントを行っており、認知度は向上している一方で、現地やテレビ等での観戦に繋がっていない傾向があります。今後は、認知度向上に向けた取組だけでなく、市民の応援機運醸成や観戦率の向上に向けた取組も必要です。

## オ 「みる」スポーツの推進

### 現状

2024年度に豊田スタジアムで開催された大規模スポーツイベント数は29件、観客数は736,778人となっています。第4次プランの指標の基準年である2019年と比べてイベント数、観客数ともに増加しています。

#### 豊田スタジアムで開催されたスポーツイベント数、観客数

	2019年度	2024年度
イベント数	14件	<b>29件</b>
観 光 客	498,096人	<b>736,778人</b>

出典：スポーツ振興課

2024年度にスカイホール豊田で開催された大規模スポーツ大会数は18件、観客数は69,150人となっています。第4次プランの指標の基準年である2019年と比べて大会数、観客数ともに増加しています。

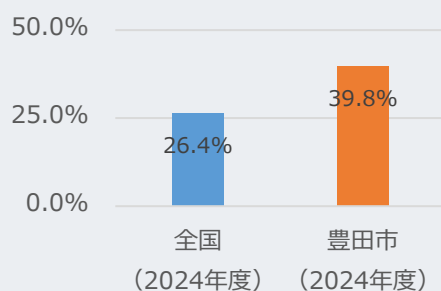
#### スカイホール豊田で開催されたスポーツ大会数、観客数

	2019年度	2024年度
スポーツ大会数	6件	<b>18件</b>
観 客 数	36,889人	<b>69,150人</b>

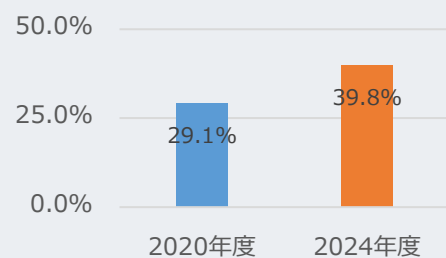
出典：スポーツ振興課

過去1年間に直接スポーツを観戦した市民の割合は、全国平均よりも高くなっており、前回調査と比較しても増加しています。

#### スポーツ観戦率（全国比較）

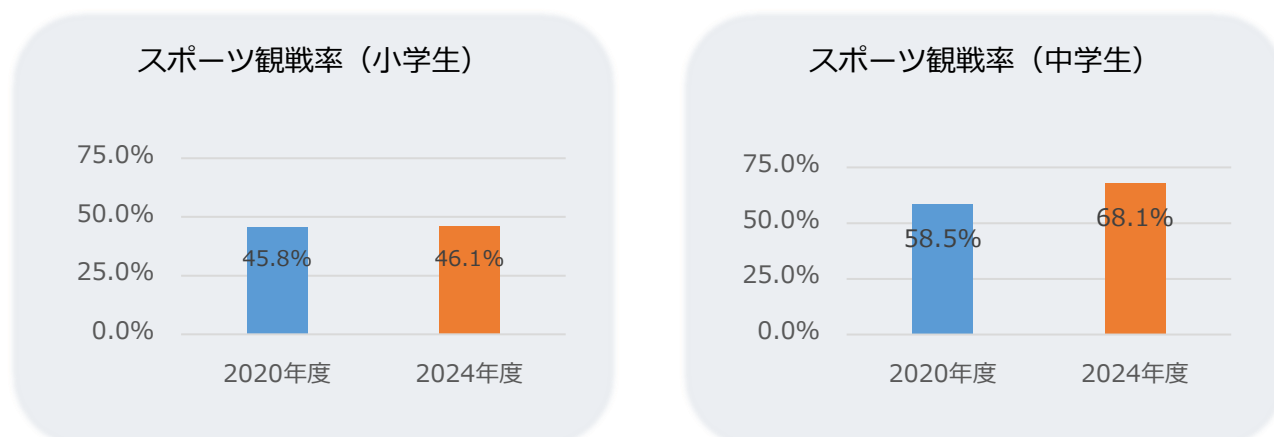


#### スポーツ観戦率（前回比較）



出典：「豊田市の教育に関するアンケート調査」（2020年度、2024年度）  
スポーツ庁：「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（2024年度）

過去1年間に直接スポーツを観戦した小・中学生の割合は、前回調査と比べていずれも増加しています。



出典：「豊田市の教育に関するアンケート調査」（2020年度、2024年度）

## 課題

2026年にはアジア競技大会・アジアパラ競技大会が本市でも開催される一方で、パロマ瑞穂スポーツパーク等近隣の大型施設の開業により、本市のスポーツイベント開催数が減少する可能性があります。今後は豊田スタジアムやスカイホール豊田等の機能向上を図るとともに、本市ゆかりのアスリート・スポーツチームとの連携を強化し、市民の「みる」スポーツを推進していくことが必要です。

## カ スポーツツーリズムの推進

### 現状

2023年度のJリーグ名古屋グランパス公式戦における一人当たりの市内消費額は8,211円となっており、2019年度と比較すると3,000円弱の減少となっています。

#### Jリーグ名古屋グランパス公式戦における市内消費額

2019年度	➤	2023年度
11,055円/人		8,211円/人

出典：Jリーグ名古屋グランパス公式戦による経済波及効果調査（2019年度、2023年度）

### 課題

大規模スポーツイベント開催時の市内消費額をJリーグ名古屋グランパス公式戦と比較すると、第4次プランの指標の基準年である2019年と比べて減少しています。また、大規模スポーツイベントの減少、それに伴う観戦客数の減少も懸念されます。今後は、規模を問わず、「みる」スポーツ、「する」スポーツのイベント（大会、合宿を含む）の誘致を進めるとともに、観戦客、主催者、出場者等、スポーツを契機とした来訪者の消費行動を促進することが必要です。

## キ スポーツを「支える」人材育成・関係団体との連携

### 現状

スポーツを「支える」活動をした市民の割合は増加しています。

スポーツを「支える」活動をした市民の割合

2020年度 5.2%  2024年度 7.1%

出典：「豊田市の教育に関するアンケート調査」（2020年度、2024年度）

市内のスポーツ団体が課題に感じていることとしては「会員数の減少」が7割、「指導者の不足」が4割以上となっており、活動者・指導者ともに減少傾向にあることがわかります。

スポーツ活動において課題に感じていること 上位5つ（複数回答可）

1	会員数の減少	70.0%
2	指導者の不足	41.4%
3	情報発信の不足	21.4%
4	スタッフ（事務担当者）の不足	20.0%
5	活動資金の不足	18.6%

出典：「次期生涯スポーツプラン策定に向けた調査（クラブ・チーム）」（2025年度）

### 課題

人口減少や少子高齢化の進行により、スポーツを支える人材の減少や、関係団体の弱体化が懸念されます。今後は、部活動の地域展開や地域スポーツの推進に向けて、指導者や運営人材の発掘・育成を進めるとともに、スポーツ関係団体への支援と連携を強化していく必要があります。

## ク 安全・安心・快適なスポーツ施設の運営と利便性向上

### 現状

各施設に対する市内スポーツ団体の意見としては、「空調設備の改善をしてほしい」「施設の予約が取りにくい」といった内容が見られました。

#### 大会等で使用する会場への要望 主な意見（複数回答可）

1	空調設備を改善してほしい	13.9%
2	施設の予約が取りにくい	8.8%
3	施設設備、用品の修繕を行ってほしい	5.0%

#### 練習で使用する会場への要望 主な意見（複数回答可）

1	予約が取りにくい	10.5%
2	空調設備を改善してほしい	6.6%
3	予約システムが使いづらい	2.6%

#### 学校施設開放で使用する会場への要望 主な意見（複数回答可）

1	インターネットでの予約ができるようにしてほしい	13.5%
2	施設設備、用具の修繕を行ってほしい	8.1%

出典：「次期生涯スポーツプラン策定に向けた調査（クラブ・チーム）」（2025年度）

### 課題

屋内・屋外スポーツ施設の利用においては、熱中症リスクや予約の煩雑さ等が利用者の活動意欲や利便性に影響を及ぼしていると考えられます。今後は、熱中症予防のための空調設備の導入、夜間照明のLED化、施設予約の利便性向上のためのシステム改修・構築、民間スポーツ施設との連携等を通じて、快適で利便性の高いスポーツ環境を構築していくことが必要です。

## ケ スポーツを「支える」持続可能な仕組みの構築

### 現状

運動やスポーツを行う上で、情報が不足していると感じる市民の割合は、53.7%となっており、その中でも特に「施設の場所」「施設の内容」「施設の用具や遊具」に関する情報が不足していると感じる市民が多くなっています。

情報が不足していると感じる市民の割合

**53.7%**

特に情報が不足していると感じる内容

1	施設の場所	<b>57.5%</b>
2	施設の内容	<b>33.6%</b>
3	施設の用具や遊具	<b>26.6%</b>

出典：「豊田市の教育に関するアンケート調査」（2025年度）

現在運用している学校施設開放業務について、業務に携わる職員の80.4%が負担に感じていると回答しています。

学校施設開放業務を負担に感じている職員の割合

**80.4%**

出典：「学校施設開放事業に関するアンケート調査」（2024年度）

### 課題

施設や各種制度に関する情報は、集約した上で、市民に対して分かりやすく発信していくことが求められます。併せて、現在運用している制度についても、ニーズの多様化や持続可能な運用の観点から、適宜見直しを図ることが重要です。

## 第2章 プランの基本的な考え方

- 1 スポーツの定義
- 2 プランの位置付け・期間
- 3 目指す姿
- 4 基本方針
- 5 基本施策
- 6 重点プロジェクト
- 7 スポーツ施設整備に関する考え方と方向性
- 8 「する」「楽しむ」「支える」スポーツの一体的推進

## 第2章 プランの基本的な考え方

### 1 スポーツの定義

本プランでは、スポーツの定義を以下のとおりとします。

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動

<例>

- ・ 幼児期における身体を使った遊び
- ・ 陸上、球技、水泳等の競技種目
- ・ 日常の健康増進に向けた活動（ウォーキング、ストレッチ、ヨガ 等）
- ・ 自然環境の中で楽しむ身体活動（登山、トレイルラン 等）
- ・ 楽しみや交流を目的としたレクリエーション活動（eスポーツ 等）



#### ■ スポーツ基本法及びスポーツ基本計画におけるスポーツ

「スポーツ基本法」では、スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない」とされており、市民の生活を豊かにしていくものの一つと位置付けられます。

また、「第3期スポーツ基本計画」においては、スポーツを「楽しさ・喜び・自発性に基づく活動」と捉え、その価値として心身の健康の保持増進や生きがいの醸成、ウェルビーイングへの貢献を強調しており、競技に限らず日常的な身体活動まで含む広い概念として位置付けられています。



### 3 目指す姿

本プランでは、スポーツの持つ多様な価値を広く市民に提供し、暮らしや人生の豊かさ、まちの活性化や魅力創造につなげていくため、以下の「目指す姿」を掲げます。



**誰もが生涯にわたり、スポーツに親しみ、  
スポーツで人と人とながらるまち とよた**

### 4 基本方針

「目指す姿」を実現するため、施策展開の方向性として以下の4つの基本方針を掲げます。

#### **(1) スポーツをすべての市民にとって身近な存在にしていきます**

市民のスポーツ実施率向上や参加促進を図るため、年齢・性別・障がいの有無等に関わらず、誰もが気軽にスポーツに親しみ、楽しむことのできるよう、ライフステージや体力、志向等に応じた様々な取組を推進します。

#### **(2) 豊富なスポーツ資源を生かし、まちの魅力創出につなげます**

本市は、豊田スタジアムやスカイホール豊田等、国際大会や国内トップレベルの大会に対応可能な施設を有しているほか、様々な競技種目に対応した民間スポーツ施設が整備されており、本市ゆかりのアスリートやトップスポーツチームも多数活動しています。これらの豊富なスポーツ資源を生かし、市民の一体感を高めるとともに、地域の活性化と本市の魅力創出につなげていきます。

#### **(3) 多様な担い手と連携し、市民のスポーツの裾野を広げます**

スポーツ競技団体、地域スポーツクラブ、企業、大学等、多様な主体との連携・共働により、スポーツの持つ価値や魅力を最大限に引き出し、市民が今まで以上にスポーツに親しみ、楽しめる機会を提供していきます。

#### **(4) 安全・安心・快適にスポーツに取り組める環境を整備します**

熱中症リスクの増大を踏まえたスポーツ施設への空調導入、施設予約における利便性向上やアクセシビリティ向上により、市民が安全・安心・快適にスポーツに取り組める環境を整備します。

## 5 基本施策

基本方針に基づき、「する」「楽しむ」「支える」スポーツごとに基本施策を設け、各基本施策を着実に推進していきます。

### 「する」スポーツ

1	こどもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供
2	成人が体力や志向に応じてスポーツに取り組める機会の提供
3	障がい者が気軽にスポーツに取り組める機会の提供

### 「楽しむ」スポーツ

4	本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとの交流の推進
5	本市スポーツ資源を生かした「みる」スポーツの推進
6	地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進

### 「支える」スポーツ

7	スポーツ人材の育成と関係団体との連携強化
8	安全・安心・快適で利便性の高いスポーツ環境の整備
9	スポーツ活動を支える仕組みづくりの推進

## 6 重点プロジェクト

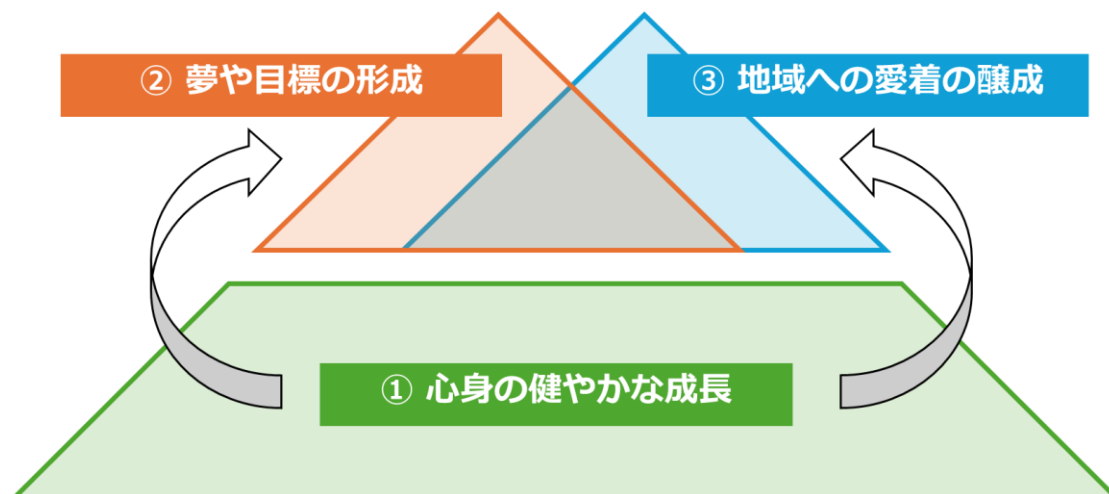
- 近年、熱中症リスクの増大、少子高齢化、部活動の地域展開、デジタル化の進展等、こどもを取り巻くスポーツ環境は大きく変化しています。
- こどもの時期にスポーツに触れることは、生涯のスポーツ習慣の形成だけでなく、心身の成長や夢・目標づくり等、可能性を広げる重要な機会となります。
- また、上位計画である「第9次豊田市総合計画」でも、「こども起点のまちづくり」を重要な視点として掲げています。
- こうした背景を踏まえ、本プランでは9つの基本施策に「こども」の視点を加え、重点プロジェクトとして施策を推進します。

### <重点プロジェクト> こどもの可能性を広げるスポーツ環境の充実

#### <基本施策を通してこどもに提供したい内容>

- ①心身の健やかな成長
- ②夢や目標の形成
- ③地域への愛着の醸成

#### 重点プロジェクトイメージ



- 市内すべてのこども達が、心身ともに健やかに成長できるよう、スポーツ機会を提供する。
- その上で、スポーツを通して、こども達の夢や目標の形成、地域への愛着の醸成につなげる。

## (1) こどもの「心身の健やかな成長」に向けた取組

- こどもの成長期には、年齢や発達段階に応じたスポーツ機会が必要です。
- 幼児期は遊びを通じた基礎動作の習得、小学生の時期は多様なスポーツ体験、中学生の時期は継続的にスポーツに取り組める環境づくりが重要となります。
- また、スポーツは身体だけでなく心の成長にも寄与します。
- 親子で身体を動かすことで情緒が育まれ、仲間との活動を通じて他者への思いやりや自律心が育ちます。
- こうしたスポーツの価値を踏まえ、本市では以下の取組を推進します。

年代	取組内容
未就学児	<ul style="list-style-type: none"><li>・遊びを通じたスポーツに親しむきっかけづくり（運動遊び教室）</li><li>・様々なスポーツに触れられる体験機会の創出（スポーツフェスティバル）</li><li>・遊びを通じた身体づくりの機会の創出（子育て支援施設での遊び体験）</li></ul>
小学生	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々なスポーツに触れられる体験機会の創出（スポーツ体験講座）</li><li>・体力向上に向けた取組（体力向上1校1実践）</li><li>・継続して参加できる教室の開催（少年団、地域スポーツクラブ）</li><li>・遊びを通じた身体づくりの機会の創出（青少年育成施設での遊び体験）</li></ul>
中学生	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域クラブ活動の展開（28中学校区でのとよた地域クラブ活動）</li><li>・継続して参加できる教室の開催（少年団、地域スポーツクラブ）</li><li>・体力向上に向けた取組（体力向上1校1実践）</li></ul>

## (2) こどもの「夢や目標の形成」に向けた取組

- スポーツを継続する中で、「もっと上手になりたい」「大会に出場したい」といった目標が生まれます。
- その達成に向けて、練習に励み、苦手を克服し、長所を伸ばす等、自ら考えて行動する経験を積みます。
- また、アスリートやトップスポーツチームの選手との交流、試合観戦を通じて、「自分も活躍したい」「将来プロスポーツ選手になりたい」といった夢も育まれます。
- 夢を持つことで、実現に向けた目標設定や努力につながります。
- こうした一連のプロセスを通じて、こどもの「生きる力」を育み、より豊かな人生につなげるため、本市では以下の取組を推進します。

### 取組内容

- ・地域クラブ活動の展開（28 中学校区でのとよた地域クラブ活動）
- ・継続して参加できる教室の開催（少年団、地域スポーツクラブ）
- ・成果披露の場となる大会等の開催（市民総合体育大会、中学総合体育大会）
- ・学校や地域でのアスリート・トップスポーツチームとの交流（夢の教室）
- ・本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームの盛り上げ・応援（パブリックビューイング）
- ・大規模スポーツイベント・大会の誘致・開催（アジア競技大会・アジアパラ競技大会、世界ラリー選手権、サッカー・ラグビー国際試合、国内トップリーグ）
- ・トップスポーツチームと連携した市民観戦の促進（親子招待）

## (3) こどもの「地域への愛着の醸成」に向けた取組

- こどもがスポーツに取り組むためには、保護者、指導者、地域の方々等、多くの大人の支えが不可欠です。
- こうした大人との関わりの中で、地域への愛着や感謝の気持ちが醸成されていきます。
- そうした気持ちが醸成されることで、こどもが成長し、大人になり、将来地域に戻った際に、次の世代にスポーツ等を通して、様々な経験を還元してもらえるよう、本市では以下の取組を推進します。

### 取組内容

- ・地域クラブ活動の展開（28 中学校区でのとよた地域クラブ活動）
- ・継続して参加できる教室の開催（少年団、地域スポーツクラブ）
- ・成果披露の場となる大会等の開催（市民総合体育大会、中学総合体育大会）
- ・スポーツ指導者等の人材確保と育成（地域指導者人材バンク）
- ・スポーツ団体と連携したスポーツノウハウの提供（こどもの運動遊び教室）
- ・市スポーツ協会及び加盟団体との連携強化（各競技団体への活動支援）
- ・地域スポーツクラブの活動の促進（地域スポーツクラブの活動支援）
- ・企業や大学との連携強化（スポーツ体験講座）

## 7 スポーツ施設整備に関する考え方と方向性

- 本市では、地域バランスを考慮した計画的な施設整備を進めており、スポーツ施設は概ね充足しています。
- 今後、身近で安全・安心・快適なスポーツ環境づくりに対応するため、持続可能な施設の整備及び管理運営を行っていきます。

### <参考：スポーツ施設の整備状況（施設種別）>

施設種別	対応の概要
体育館	「1地域1体育館」の整備が完了
運動広場	「1地区1運動広場」の整備が完了
野球場 ソフトボール場	大会が開催可能な運動公園や毘森公園をはじめ、その他施設を含めた利用状況、配置バランスを考慮した整備が完了
サッカー場（陸上競技場を含む） ラグビー場	大会が開催可能な運動公園や柳川瀬公園をはじめ、その他施設を含めた利用状況、配置バランスを考慮した整備が完了
テニスコート	地域バランスを考慮し、学校体育施設も含め、「1地域1施設（5面）以上及び夜間照明1施設以上」の整備が完了
プール	市営6プール（夏季3、通年3）を整備
マレットゴルフ場	運動公園や柳川瀬公園をはじめ、地域の大会等の開催が可能な規模で、その地域の核となるマレットゴルフ場の整備が完了
その他の施設	各種目の実施環境は充足

### （1）計画的な修繕や改修等による老朽化への対応

- 施設の老朽化を踏まえ、施設の計画的な予防保全（施設に不具合が生じる前に行う修繕）を実施し、事後保全（施設で不具合が生じた後に行う修繕）は速やかに対応します。
- 目標使用年数（60年）を公共建築物のサイクルとし、20年単位で「長寿命化事業」の実施を検討します。

## (2) 施設の機能維持及び向上

- 施設の長寿命化改修事業の検討においては、施設の安全・安心を確保するだけでなく、社会環境の変化による施設機能の陳腐化に対応するため、以下の2つの視点を踏まえて対応を検討します。

個別ニーズに対応した改修	個別の施設の利用者からの要望に対して、運用等での対応ができない又は著しく非効率であることを前提に実施する改修 例：大会基準の変更に伴う改修、アクセシビリティへの対応改修
共通ニーズに対応した改修	複数の施設において、同じ考え方にに基づき整備水準を設定し実施する改修 例：体育館アリーナ空調設備導入、館内及び屋外夜間照明のLE化改修

- 本市に経済効果や賑わいをもたらすため、全国規模の大会やイベント等を戦略的に誘致できるよう、豊田スタジアムやスカイホール豊田等、スポーツツーリズムの推進を担うべき施設に求められる機能を整理し、必要な施設整備を検討します。

対象施設	施設の目的	施設整備の方向性
中央公園 (豊田スタジアム)	集客施設として市内交流だけでなく、スポーツツーリズムの推進により市外からの交流を促進することで、交流人口の増加及び地域の活性化を生み出す施設	スポーツツーリズム及び市民利用の推進を目的に、中央公園内にスポーツパーク(人工芝グラウンド2面)を整備
スカイホール豊田		プロリーグや大規模イベントの誘致に向けて、施設の優位性を高めるための検証等を実施

## (3) 民間スポーツ施設との連携及び市営スポーツ施設の適正化

- 本市にはスポーツ振興に積極的な企業や大学が多く、様々な競技が実施可能な民間スポーツ施設が整備されています。こうした状況を踏まえ、スポーツ実施環境の一層の充実を図るため、市民利用のほか、スポーツイベントや大会における民間スポーツ施設の利活用について検討・調整を進めます。
- 民間スポーツ施設の利活用の進捗を踏まえ、既に施設数としては充足している市営スポーツ施設について、利用率や利用状況を確認しながら、施設数の適正化を検討します。

## (4) 新たな施設整備や廃止の検討

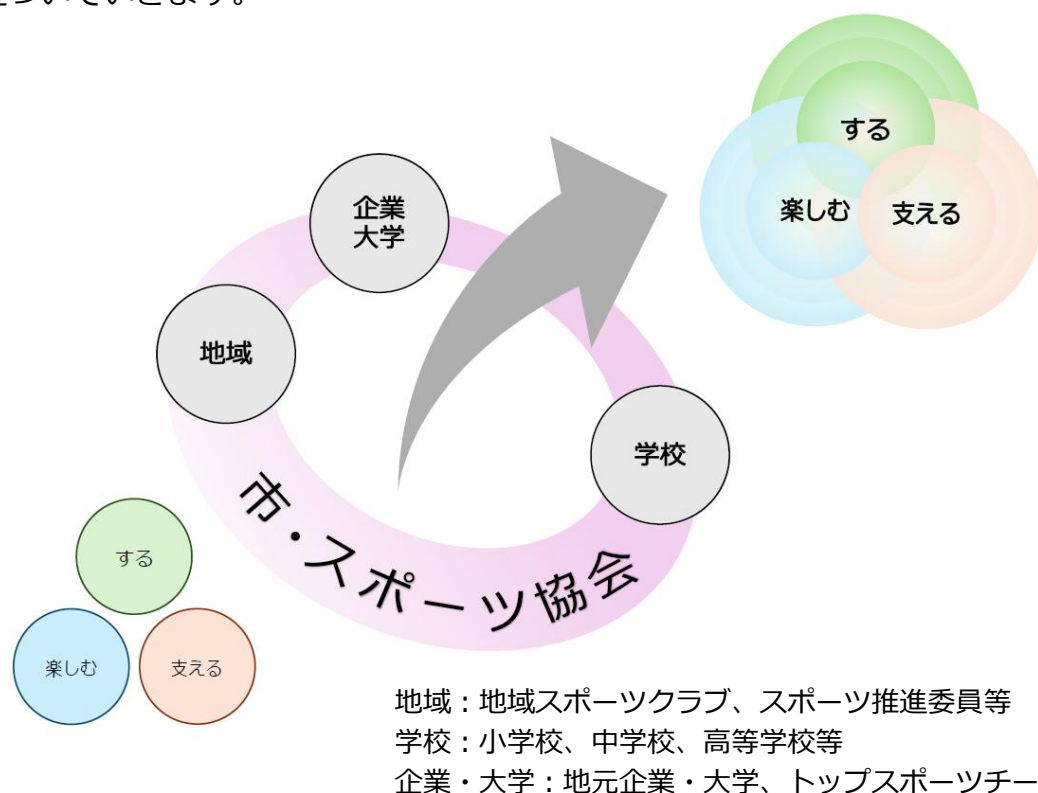
- 競技人口の増減による明らかな施設数の過不足等のニーズ変化を確認できた場合は、新たな施設整備や既存施設の廃止等の必要性を検証します。

## 8 「する」「楽しむ」「支える」スポーツの一体的推進

「する」「楽しむ」「支える」スポーツがそれぞれ連携し、つながることで、市民のスポーツ環境が充実していきます。

例えば、トップスポーツを観戦することでスポーツの「楽しさ」を感じ、自らがスポーツを「する」ことにつながったり、スポーツ大会に参加し、ボランティアの重要性に気づくことで、「支える」活動に参加したりすることが考えられます。

「する」「楽しむ」「支える」ことを総合的に推進することで、目指す姿の実現に近づいていきます。



### コラム

#### 「楽しむ」スポーツについて

本市には、豊田スタジアムやスカイホール豊田等の施設があり、多くの国際大会や全国大会等が開催され、スポーツを「みる」機会是他市よりも優れていると考えられます。また、多くのトップアスリートが在籍する企業や大学が存在し、選手との交流の機会等が充実していることも魅力の1つです。

こういった多様なスポーツ資源を積極的に活用し、スポーツを「楽しむ」ことで、「する」「支える」ことにつなげ、有機的な連携を図っていきたいと考えています。そのため、国で示している「みる」スポーツも含めて、より幅広く捉えていくという考え方から、本市では「楽しむ」と表現しています。



## 第3章 基本施策の展開

- 1 「する」スポーツ
- 2 「楽しむ」スポーツ
- 3 「支える」スポーツ
- 4 プラン体系

# 第3章 基本施策の展開

## 1 「する」スポーツ

### 基本施策1 こどもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供

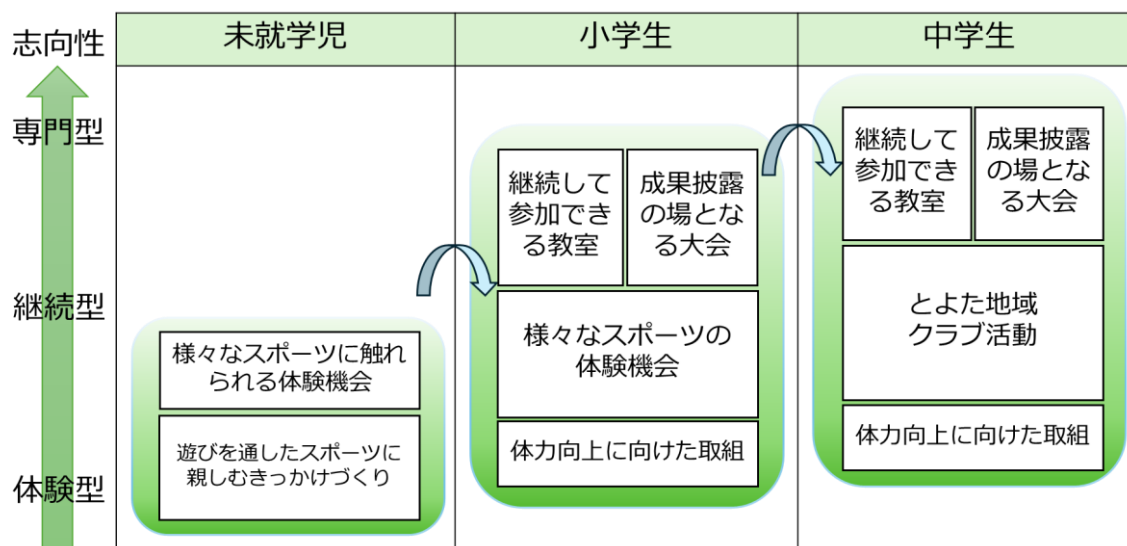
#### 基本施策推進に向けた考え方

- こどもの時期にスポーツに触れることは、生涯にわたりスポーツに親しむきっかけとなるだけでなく、心身の健やかな成長、夢や目標の形成、地域への愛着の醸成等、こどもの可能性を広げる上で重要な意義を持ちます。
- しかし近年では、熱中症リスクの増大、少子化、デジタル化の進展等により、こどものスポーツを取り巻く環境は大きく変化し、スポーツ実施率は低下しています。
- こうした状況の中にあっても、多くのこどもがスポーツの楽しさに触れ、好きになり、親しんでもらうための施策を推進していきます。
- 施策の推進にあたっては、「スポーツの楽しさに触れられるきっかけ」を広く提供した上で、スポーツを好きになったこどもが、「継続してスポーツに取り組める環境」を整備していくことが重要となります。
- このほか、年齢によってスポーツとの関わり方も変化するため、「年齢に合ったきめ細やかなスポーツ機会の提供」、一人でも多くのこどもが実施できるよう「身近な地域でのスポーツの場の確保」も重要となってきます。
- また、本市においても開催されるアジア競技大会・アジアパラ競技大会を契機に、こども達に競技スポーツの魅力も伝えていきます。
- これらを踏まえ、以下のとおり取組の方向性を整理し、各種取組を推進します。

#### <取組の方向性>

- ① こどものスポーツ体験機会の創出
- ② こどもがスポーツに継続して取り組める環境整備

#### 未就学児から中学生までの志向性と施策に関するイメージ



## 【取組の方向性①】 こどものスポーツ体験機会の創出

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	遊びを通じたスポーツに親しむきっかけづくり	こども園での出前教室や子育て支援施設、青少年育成施設等での身体を使った遊びを通して、スポーツに親しむきっかけを創出する。	○
2	様々なスポーツに触れられる体験機会の創出	イベントや学校での出前授業を通して、様々な種目のスポーツを体験できる機会を創出する。	○
3	体力向上に向けた取組	運動好きな児童・生徒を増やし、体力向上につなげるため、各小・中学校の現状に合わせた取組を実施する。	○

## 【取組の方向性②】 こどもがスポーツに継続して取り組める環境整備

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	とよた地域クラブ活動の展開	市内全ての中学校の部活動を豊田市が運営主体となる「とよた地域クラブ活動」に移行する。	○
2	継続して参加できる室の開催	スポーツ少年団や競技団体、地域スポーツクラブ等と連携し、こどもが継続して参加できる教室を開催する。	○
3	競技スポーツの振興	こどもが、日頃の活動の成果を披露できる場として大会等を開催するとともに、アスリートや民間事業者との連携を強化し、競技スポーツの振興を図る。	○

## 【評価指標】

評価指標	現状値（2025年度）	目指す方向
スポーツをすることが好きな児童・生徒の割合	小学生：90.4% 中学生：86.0%	↑
1週間の総運動量が60分未満の児童・生徒の割合	小学生：15.2% 中学生：13.8%	↓

## 基本施策2 成人が体力や志向に応じてスポーツに取り組める機会の提供

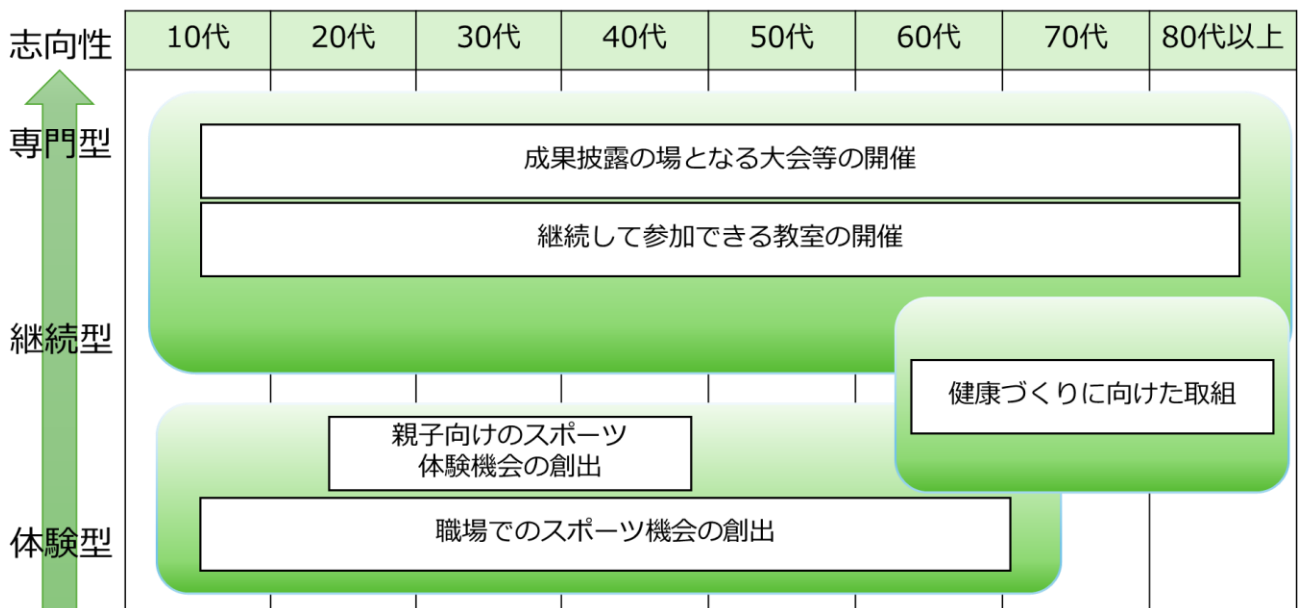
### 基本施策推進に向けた考え方

- 「人生 100 年時代」と言われる現代においては、いつまでも元気に自分らしく過ごせるよう、健康寿命の延伸に向けた取組が重要となります。
- スポーツは、健康増進はもとより、人と人とのつながりづくりや、生きがいづくりにも寄与し、日々の暮らしや人生を豊かにする力を有しています。
- 一方で、熱中症リスクの増大やライフスタイルの多様化によって、成人のスポーツ実施率もこども同様低下傾向にあります。
- 本市では、成人のスポーツ実施率を高めるため、ライフステージに応じた施策を推進していきます。
- 具体的には、仕事や子育てが忙しく、スポーツに取り組む時間が確保しづらい「働く世代・子育て世代」や、体力が低下してくる高齢者が、気軽にスポーツに親しめるよう、地域スポーツクラブやスポーツ推進委員、企業等と連携した取組を展開します。

### ＜取組の方向性＞

- ① 働く世代・子育て世代のスポーツ機会の創出
- ② 高齢者のスポーツ機会の創出

### 成人の志向性と施策に関するイメージ




### 【取組の方向性①】 働く世代・子育て世代のスポーツ機会の創出

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	親子向けのスポーツ体験機会の創出	地域スポーツクラブやトップスポーツチーム等と連携し、親子で参加できるスポーツ体験機회를創出する。	○
2	職場でのスポーツ機会の創出	事業所の従業員を対象に、職場で実施可能な出前教室を展開する。	
3	継続して参加できる教室の開催	各競技団体や地域スポーツクラブ、民間事業所等と連携し、働く世代・子育て世代が継続して参加できる教室を展開する。	
4	競技スポーツの振興	働く世代・子育て世代が、日頃の活動の成果を披露できる場として大会等を開催するとともに、アスリートや民間事業者との連携を強化し、競技スポーツの振興を図る。	

### 【取組の方向性②】 高齢者のスポーツ機会の創出

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	健康づくりに向けた取組	高齢者の健康づくりに資する取組(eスポーツの活用含む) に対する支援を行う。	
2	継続して参加できる教室の開催	各競技団体や地域スポーツクラブ等と連携し、高齢者が継続して参加できる教室を展開する。	
3	競技スポーツの振興	高齢者が、日頃の活動の成果を披露できる場として大会等を開催するとともに、アスリートや民間事業者との連携を強化し、競技スポーツの振興を図る。	

### 【評価指標】

評価指標	現状値 (2024 年度)	目指す方向
成人のスポーツ実施率 (週 1 回以上)	53.0%	

## 基本施策3 障がい者が気軽にスポーツに取り組める機会の提供

### 基本施策推進に向けた考え方

- 障がいの有無に関わらず、スポーツに取り組める環境を整備していくことは、「誰もが生涯にわたり、スポーツに親しめるまち」の実現につながります。
- 本市における週1回以上スポーツを実施した障がい者の割合は16.0%であり、国の目標値40%程度を下回っており、障がい者が気軽にスポーツに取り組める環境の整備が重要な課題となっています。
- こうした課題に対応するためには、障がい者がスポーツに取り組む上で障壁となっている内容を把握し、施策の推進に生かしていくことが重要です。
- さらに、本市でも開催されるアジアパラ競技大会を通じて、障がいへの理解や障がい者の社会参加が一層進むことが期待されており、障がい者がスポーツに気軽に取り組める環境整備を推進するうえでも重要な機会となります。
- 施策の推進にあたっては、健常者同様、ライフステージに応じたスポーツへの関わり方を意識した取組が必要となってくるため、以下のとおり取組の方向性を整理し、各種取組を推進します。

### <取組の方向性>

- ① 障がい者のスポーツ体験機会の創出
- ② 障がい者がスポーツに継続して取り組める環境整備

### 障がい者の志向性と施策に関するイメージ




### 【取組の方向性①】 障がい者のスポーツ体験機会の創出

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	こどものスポーツ体験機会の創出	イベントや学校での出前授業を通して、障がいのあるこどもがスポーツを体験できる機会を創出する。	○
2	成人のスポーツ体験機会の創出	障がい福祉サービス事業所の利用者を対象とした出前教室を展開するとともに、職員へスポーツノウハウを提供することで、日常的にスポーツに取り組める環境をつくる。	
3	競技活動を支える環境整備	障がい者が気軽にスポーツを始められるよう、競技用補装具購入のサポートを実施する。	○

### 【取組の方向性②】 障がい者がスポーツに継続して取り組める環境整備

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	障がい者スポーツ指導員の育成	障がいのある人に対して、安全かつ適切にスポーツを指導・支援するための知識と技術を持つ人材を育成する。	○
2	継続して参加できる教室の開催	地域スポーツクラブ等と連携し、障がい者が継続して参加できる教室（eスポーツの活用含む）を開催する。	○
3	競技スポーツの振興	障がい者が、日頃の活動の成果を披露できる場として大会等を開催するとともに、アスリートや民間事業者との連携を強化し、競技スポーツの振興を図る。	○

### 【評価指標】

評価指標	現状値（2025年度）	目指す方向
障がい者のスポーツ実施率（週1回以上）	16.0%	

## 2 「楽しむ」スポーツ

### 基本施策4 本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとの交流の推進

#### 基本施策推進に向けた考え方

- 本市は、他自治体と比べ、市内企業・大学等に所属するアスリートやトップスポーツチームが多数活動しており、本市の強みの一つとなっています。
- 本市ではこうした強みを生かし、アスリートやトップスポーツチームとこども園・小・中学校との交流や、スポーツイベントでの市民との交流を推進しており、認知度も徐々に向上しています。
- 市民が本市ゆかりのアスリートやトップスポーツチームを知り、交流し、応援することは、まちへの愛着を育むきっかけとなります。
- こうした関心や応援の広がりや、アスリートやトップスポーツチームの力を引き出す原動力となるだけでなく、こどもが夢を描くきっかけにもなります。
- また、応援の広がりや、市民の「みる」スポーツの推進、まちの活性化にもつながることから、本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームの認知度の更なる向上と、交流機会の創出に取り組んでいきます。

#### <取組の方向性>

- ① **本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームのPRの推進**
- ② **本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとのふれあいの創出**

### 【取組の方向性①】 本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームのPRの推進

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	アスリートやトップスポーツチームに関する情報収集と積極的な発信	本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームに関する情報を収集し、積極的に発信する。	
2	盛り上げ・応援事業の実施	オリンピックやパラリンピック等に合わせて、本市ゆかりのアスリートやトップスポーツチームの盛り上げ・応援を行う。	○

### 【取組の方向性②】 本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとのふれあいの創出

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	学校や地域での交流の推進	優れたスポーツ人材を有する企業・大学・団体等と連携して、学校での出前教室や地域でのイベント等の交流の場を創出する。	○

### 【評価指標】

評価指標	現状値（2024年度）	目指す方向
本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームの認知度	豊田市わがまちアスリート : 75.0% 名古屋グランパス : 98.9% トヨタヴェルブリッツ : 90.8% トヨタ自動車硬式野球部 : 82.6% トヨタレッドテリアーズ : 35.9%	↑
本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームと交流した園児・児童・生徒の割合	園児 : 33.1% 児童 : 72.5% 生徒 : 3.9%	↑

## 基本施策5 本市スポーツ資源を生かした「みる」スポーツの推進

### 基本施策推進に向けた考え方

- 本市は、トップスポーツチームによる活動が盛んであることに加え、豊田スタジアムやスカイホール豊田をはじめ、大規模なスポーツイベントや大会が開催可能な施設を有しています。
- また、企業・大学により、様々な競技種目に対応したスポーツ施設が整備されています。
- こうした強みを生かし、本市では、スポーツイベントや大会、合宿の積極的な誘致に取り組んでいきます。
- また、アジア競技大会・アジアパラ競技大会や世界ラリー選手権等の世界トップレベルのスポーツイベントや大会を生かし、市民のスポーツへの関心を高め、「みる」スポーツを推進します。

### ＜取組の方向性＞

- ① **本市スポーツ施設を生かした市民のスポーツ観戦機会の創出**
- ② **本市ゆかりのトップスポーツチームと連携した市民へのスポーツ観戦機会の提供**


**【取組の方向性①】 本市スポーツ施設を生かした市民のスポーツ観戦機会の創出**

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	大規模スポーツイベント・大会の誘致・開催	市民が世界トップレベルのスポーツを観戦できるよう、豊田スタジアムやスカイホール豊田等の施設を生かし、大規模スポーツイベント・大会を積極的に誘致する。	○
2	魅力的なスポーツ施設の整備	豊田スタジアムやスカイホール豊田等の施設について、国際大会開催基準への対応を含む施設整備を進め、機能向上を図る。	

**【取組の方向性②】 本市ゆかりのトップスポーツチームと連携した市民へのスポーツ観戦機会の提供**

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	市民観戦の促進	トップスポーツチームと連携した市民向け観戦企画やパブリックビューイング等を実施する。	○
2	試合情報の積極的な発信	トップスポーツチームと連携して試合情報や活躍情報等を収集し、積極的に発信する。	

**【評価指標】**

評価指標	現状値（2024年度）	目指す方向
現地でスポーツ観戦した市民の割合	39.8%	

## 基本施策6 地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進

### 基本施策推進に向けた考え方

- スポーツは、個人の日々の暮らしを豊かにするだけでなく、まちを活性化させる役割も持っています。
- 本市は、豊田スタジアムやスカイホール豊田をはじめとした大規模スポーツ施設を有しており、これまでも大規模なスポーツイベントや大会を開催してきました。
- 一方で、アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催を見据え、周辺自治体のスポーツ施設建設や改修が進んでおり、これまで本市で開催されてきたスポーツイベントや大会が、今後、他自治体に流出していく懸念があります。
- そこで、既存のスポーツイベントや大会の主催者との連携をより緊密に行い、ニーズを把握するとともに、民間が整備しているスポーツ施設も活用しながら新たなスポーツイベントや大会の誘致にも積極的に取り組んでいきます。
- 併せて、令和8年9月に開業する中央公園スポーツパークの活用、豊富な自然資源を生かしたアウトドアスポーツの推進等、「する」スポーツに関わるイベント（大会・合宿を含む）の誘致にも取り組んでいきます。
- また、スポーツイベントや大会の来訪者に向けた、市内周遊・宿泊促進の取組や、消費喚起に向けた取組を推進することで、地域活性化につなげていきます。

### <取組の方向性>

- ① 「みる」スポーツツーリズムの推進
- ② 「する」スポーツツーリズムの推進


### 【取組の方向性①】「みる」スポーツツーリズムの推進

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	大規模スポーツイベント・大会の誘致・開催	市外からの誘客を促進するため、豊田スタジアムやスカイホール豊田等の施設を生かし、大規模スポーツイベントを積極的に誘致する。	
2	大規模スポーツイベント・大会への誘客促進	市民の観戦機運醸成や、遠方からの観戦客の誘客促進に向けた取組を実施する。	
3	大規模スポーツ施設の多様な利活用の促進	豊田スタジアムやスカイホール豊田等の施設を多様に活用するため、イベント等を積極的に誘致する。	
4	魅力的なスポーツ施設の整備	豊田スタジアムやスカイホール豊田等の施設について、国際大会開催基準への対応を含む施設整備を進め、機能向上を図る。	
5	市内周遊及び消費・宿泊の促進	「みる」スポーツイベント等の開催を契機として、観光資源等を活用し、市内周遊を促進するとともに、消費・宿泊の誘発を図る。	

### 【取組の方向性②】「する」スポーツツーリズムの推進

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	「する」スポーツのイベント・大会・合宿の誘致・開催	多様なスポーツ施設や豊かな自然資源を生かしたスポーツ大会や合宿、アウトドアスポーツイベントを誘致する。	
2	市内周遊及び消費・宿泊の促進	「する」スポーツイベント等の開催を契機として、観光資源等を活用し、市内周遊を促進するとともに、消費・宿泊の誘発を図る。	

### 【評価指標】

評価指標	現状値	目指す方向
豊田スタジアム、スカイホール豊田における ●スポーツイベント・大会数 ●観客数 ●スポーツイベント・大会開催時の市内消費額	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>スポーツイベント・大会数</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田スタジアム : 15 件 (2018 年度) ※瑞穂陸上競技場改修前の 2018 年度の数値を基準とする。</li> <li>・スカイホール豊田 : 18 件 (2024 年度)</li> </ul> </li> <li>●<u>観客数</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田スタジアム : 369,385 人 (2018 年度) ※瑞穂陸上競技場改修前の 2018 年度の数値を基準とする。</li> <li>・スカイホール豊田 : 69,150 人 (2024 年度)</li> </ul> </li> <li>●<u>スポーツイベント・大会開催時の市内消費額</u> 5,805 円 (チケット代を除く 2022 年度～2024 年度の経済波及効果調査の平均)</li> </ul>	

### 3 「支える」スポーツ

#### 基本施策7 スポーツ人材の育成と関係団体との連携強化

##### 基本施策推進に向けた考え方

- 「する」「楽しむ」スポーツを推進していくためには、それを支える「人」や「団体」の存在が不可欠です。
- 本市は、市内12の地域スポーツクラブや企業・大学、スポーツボランティアとよた等、他自治体と比べ、スポーツを支える「人」や「団体」が充実しています。
- また、アジア競技大会・アジアパラ競技大会等の大規模イベントが開催される等、ボランティアの活動の場も充実しています。
- 一方で、少子化に伴うスポーツ競技団体の活動基盤の低下や、高齢化に伴う担い手不足等の課題が顕在化してきています。
- さらに、部活動の地域展開に伴い、新たに指導者を確保していく必要があります。
- こうした課題に対応するため、以下のとおり取組の方向性を整理し、各種取組を推進します。

##### <取組の方向性>

- ① **スポーツ人材の育成と活動機会の提供**
- ② **スポーツ団体への支援強化と連携の推進**

### 【取組の方向性①】 スポーツ人材の育成と活動機会の提供

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	スポーツ指導者等の人材育成	とよた地域クラブ活動やスポーツ推進委員等の研修機会を充実させ、指導者の資質向上を図る。	○
2	スポーツボランティアとよたの活動機会の拡充	市内のスポーツイベント・大会等の主催者と連携し、スポーツボランティアとよたの活動機会を拡充する。	

### 【取組の方向性②】 スポーツ団体への支援強化と連携の推進

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト
1	市スポーツ協会及び加盟団体との連携強化	市スポーツ協会に加盟する各競技団体との連携を強化することで、各競技の発展を促進する。	○
2	地域スポーツクラブの活動の促進	連携事業を始めとした地域スポーツクラブへの支援を行い、地域スポーツクラブの活動を促進するとともに、地域スポーツクラブの活動をサポートするための仕組みを構築する。	○
3	企業や大学との連携強化	スポーツに関わる優れた知見を有する企業・大学との連携を強化し、こどもを始めとした市民に質の高いスポーツ環境を提供する。	○

### 【評価指標】

評価指標	現状値（2024年度）	目指す方向
スポーツを「支える」活動をした市民の割合	7.1%	
地域スポーツクラブの教室数	307 教室	

## 基本施策8 安全・安心・快適で利便性の高いスポーツ環境の整備

### 基本施策推進に向けた考え方

- 「する」「楽しむ」スポーツを推進していくためには、「施設環境」の充実も不可欠です。
- 「1地域1体育館」「1地区1運動広場」を原則とし、地域バランスを考慮した計画的な施設整備を進めてきた結果、利用率、利用状況からみて、施設の数には充足しています。
- 一方で、熱中症リスクの増大やデジタル化の進展等、スポーツを取り巻く環境は大きく変化してきており、「量の充足」から「質の充足」への転換が求められています。
- こうしたことを踏まえ、市民が安心してスポーツに取り組めるよう、既存のスポーツ施設の計画的な改修や日々の安全管理を着実に実施していくとともに、市民が快適に施設を利用できるよう、必要な環境整備を行ってきます。
- また、民間スポーツ施設との連携も強化し、市民がスポーツに親しむ機会を広げていきます。

### <取組の方向性>

- ① 安全・安心・快適なスポーツ施設の整備
- ② スポーツ施設利用者の利便性の向上



### 【取組の方向性①】 安全・安心・快適なスポーツ施設の整備

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト外
1	スポーツ施設の機能向上	スポーツ環境の変化を踏まえ、市民が安全・安心・快適に施設利用ができるよう、施設機能を向上させる。	
2	スポーツ施設の適切な維持管理	施設の破損・不具合に対して迅速かつ適切に対応するとともに、長寿命化に向けた計画的な改修等を実施する。	

### 【取組の方向性②】 スポーツ施設利用者の利便性の向上

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト外
1	予約システムの改修・構築	スポーツ施設・学校施設の予約手続きの利便性向上のため、予約システムの改修・構築を行う。	
2	民間スポーツ施設との連携	民間スポーツ施設との連携を強化し、市民が利用しやすい環境づくりを進める。	

### 【評価指標】

評価指標	現状値	目指す方向
スポーツ施設、学校施設の利用満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ施設 : -</li> <li>●学校施設 : -</li> </ul> <small>※2026年度に利用満足度調査を実施</small>	
スポーツ施設、学校施設の利用者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ施設 : 2,275,732人 (2024年度)</li> <li>●学校施設 : 858,048人 (2024年度)</li> </ul>	

## 基本施策9 スポーツ活動を支える仕組みづくりの推進

### 基本施策推進に向けた考え方

- 本市では、市民のスポーツ活動を支える様々な制度の運用に取り組んできましたが、スポーツを取り巻く環境変化も踏まえ、さらなる見直しが求められています。
- 特に重要な視点として、「ニーズの多様化」と「持続可能性」の2点が挙げられます。
- 「ニーズの多様化」については、新たなスポーツ種目の登場や、楽しみ方や関わり方の多様化が進んでいます。
- 「持続可能性」については、スポーツを支える人材の高齢化や教員の働き方改革等を背景に、持続可能な運営体制の構築が課題となっています。
- こうした課題に対応するため、以下のとおり取組の方向性を定めた上で、各種取組を推進します。

### ＜取組の方向性＞

- ① **スポーツ活動を推進する制度等の運用**
- ② **スポーツ活動を支える持続可能な仕組みの構築**




### 【取組の方向性①】 スポーツ活動を推進する制度等の運用

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト外
1	大会に出場するアスリートへの支援	全国・世界規模の大会等に出場する市民に対して奨励報奨金等を通じた支援を行い、競技活動の充実を図る。	○
2	スポーツ情報の集約と発信	施設や教室等、スポーツに関する情報を集約し発信する。	

### 【取組の方向性②】 スポーツ活動を支える持続可能な仕組みの構築

No.	取組名	取組内容	重点プロジェクト外
1	地域スポーツ活動を支える指導者の確保	豊田市地域指導者人材バンクの運用等を通して、とよた地域クラブ活動をはじめとした地域のスポーツを支える指導者の確保に取り組む。	○
2	学校施設開放事業の効率的な運用	予約システムの構築や電子キーボックスの導入により、学校施設開放事業の業務の効率化を図る。	

### 【評価指標】

評価指標	現状値（2024年度）	目指す方向
市民活動奨励報奨金の交付件数	293件	
とよた地域クラブ活動の指導者登録数	696人	
地域スポーツクラブの指導者数	584人	

## 4 プラン体系

目指す姿

誰もが生涯にわたり、スポーツに親しみ、  
スポーツで人と人がつながるまち とよた

重点プロジェクト

基本施策

こどもの可能性を広げるスポーツ環境の充実

### 「する」 スポーツ

- 1 こどもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供
- 2 成人が体力や志向に応じてスポーツに取り組める機会の提供
- 3 障がい者が気軽にスポーツに取り組める機会の提供

### 「楽しむ」 スポーツ

- 4 本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとの交流の推進
- 5 本市スポーツ資源を生かした「みる」スポーツの推進
- 6 地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進

### 「支える」 スポーツ

- 7 スポーツ人材の育成と関係団体との連携強化
- 8 安全・安心・快適で利便性の高いスポーツ環境の整備
- 9 スポーツ活動を支える仕組みづくりの推進

## 基本方針

- (1) スポーツをすべての市民にとって身近な存在にしていきます
- (2) 豊富なスポーツ資源を生かし、まちの魅力創出につなげます
- (3) 多様な担い手と連携し、市民のスポーツの裾野を広げます
- (4) 安全・安心・快適にスポーツに取り組める環境を整備します

### 取組の方向性

### 取組名 ○: 重点プロジェクト

#### ①こどものスポーツ体験機会の創出

- ・遊びを通じたスポーツに親しみきっかけづくり ○
- ・様々なスポーツに触れられる体験機会の創出 ○
- ・体力向上に向けた取組 ○

#### ②こどもがスポーツに継続して取り組める環境整備

- ・とよた地域クラブ活動の展開 ○
- ・継続して参加できる教室の開催 ○
- ・競技スポーツの振興 ○

#### ①働く世代・子育て世代のスポーツ機会の創出

- ・親子向けのスポーツ体験機会の創出 ○ ・競技スポーツの振興
- ・職場でのスポーツ機会の創出
- ・継続して参加できる教室の開催

#### ②高齢者のスポーツ機会の創出

- ・健康づくりに向けた取組
- ・継続して参加できる教室の開催
- ・競技スポーツの振興

#### ①障がい者のスポーツ体験機会の創出

- ・こどものスポーツ体験機会の創出 ○
- ・成人のスポーツ体験機会の創出
- ・競技活動を支える環境整備 ○

#### ②障がい者がスポーツに継続して取り組める環境整備

- ・障がい者スポーツ指導員の育成 ○
- ・継続して参加できる教室の開催 ○
- ・競技スポーツの振興 ○

#### ①本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームのPRの推進

- ・アスリートやトップスポーツチームに関する情報収集と積極的な発信
- ・盛り上げ・応援事業の実施 ○

#### ②本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとのふれあいの創出

- ・学校や地域での交流の推進 ○

#### ①本市スポーツ施設を生かした市民のスポーツ観戦機会の創出

- ・大規模スポーツイベント・大会の誘致・開催 ○
- ・魅力的なスポーツ施設の整備

#### ②本市ゆかりのトップスポーツチームと連携した市民へのスポーツ観戦機会の提供

- ・市民観戦の促進 ○
- ・試合情報の積極的な発信

#### ①「みる」スポーツツーリズムの推進

- ・大規模スポーツイベント・大会の誘致・開催 ・魅力的なスポーツ施設の整備
- ・大規模スポーツイベント・大会への誘客促進 ・市内周遊及び消費・宿泊の促進
- ・大規模スポーツ施設の多様な利活用の促進

#### ②「する」スポーツツーリズムの推進

- ・「する」スポーツのイベント・大会・合宿の誘致・開催
- ・市内周遊及び消費・宿泊の促進

#### ①スポーツ人材の育成と活動機会の提供

- ・スポーツ指導者等の人材育成 ○
- ・スポーツボランティアとよたの活動機会の拡充

#### ②スポーツ団体への支援強化と連携の推進

- ・市スポーツ協会及び加盟団体との連携強化 ○
- ・地域スポーツクラブの活動の促進 ○
- ・企業や大学との連携強化 ○

#### ①安全・安心・快適なスポーツ施設の整備

- ・スポーツ施設の機能向上
- ・スポーツ施設の適切な維持管理

#### ②スポーツ施設利用者の利便性の向上

- ・予約システムの改修・構築
- ・民間スポーツ施設との連携

#### ①スポーツ活動を推進する制度等の運用

- ・大会に出場するアスリートへの支援 ○
- ・スポーツ情報の集約と発信

#### ②スポーツ活動を支える持続可能な仕組みの構築

- ・地域スポーツ活動を支える指導者の確保 ○
- ・学校施設開放事業の効率的な運用



## 第4章 プランの推進体制と進捗管理

### 1 推進体制

### 2 進捗管理

## 第4章 プランの推進体制と進捗管理

### 1 推進体制

市内の様々な関係者と綿密に連携し、本プランを計画的かつ効果的に推進していきます。

#### ①市・スポーツ協会

市民がいつでも、どこでも、誰でも、スポーツができるよう、情報提供や活動の場、機会の充実等、市民のスポーツ活動の支援やスポーツができる環境の整備を行っていきます。プランの推進主体の中核として、各主体との連携及び協力を支え、目指す姿の実現に向けて、施策や取組を着実に推進していきます。

#### ②地域※

市におけるスポーツ推進の方向性を踏まえ、それぞれの地域において、市民のスポーツ活動を推進していくことが期待されます。スポーツに関する情報発信や市民の誰もがスポーツに関わることのできる場や機会の提供が期待されます。

※地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等

#### ③企業・大学

アスリートやトップスポーツチームが多く在籍する企業・大学は、様々な主体との連携により、アスリートの地域交流、学校訪問等を通じて、スポーツ活動へのきっかけづくり等の貢献が期待されます。また、選手やチームが活躍することは、市民に夢や感動を与え、市全体のスポーツ気運の醸成につながると考えられます。

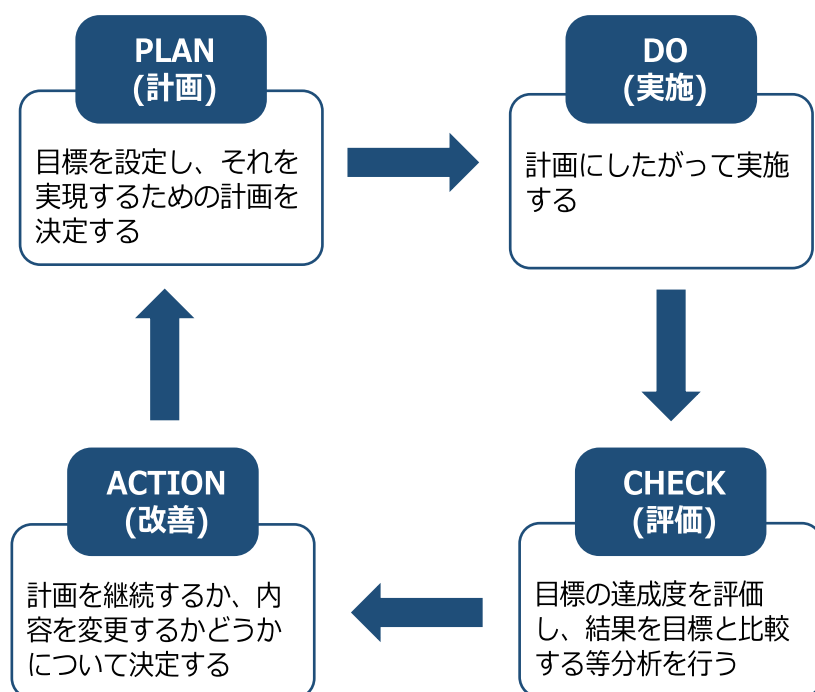
#### ④学校

児童・生徒に日常的なスポーツの機会を提供し、こどもの体力・運動能力の向上を図るとともに、生涯を通じてスポーツに親しむきっかけづくりが期待されます。

## 2 進捗管理

本プランの推進に向けて、基本施策ごとに評価指標を設定し、計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）のサイクルに基づき、定期的に進捗管理を行っていきます。

具体的には、第3章に示す施策や取組が適切に実行できているかどうかを確認するため、各取組の実施状況を年度ごとに把握し、関係団体等が参画する豊田市スポーツ推進審議会において点検、評価を行うことにより、適切な進行管理に努めます。



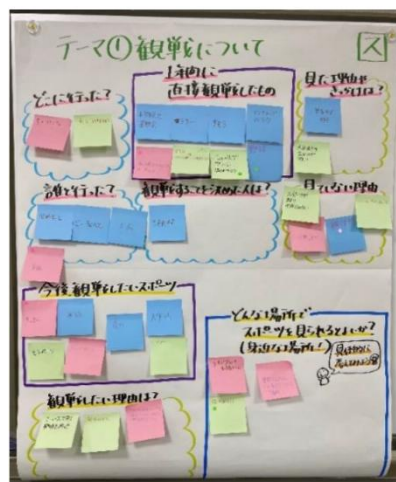


## 資料編

- 1 第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けたプロセス
- 2 豊田市スポーツ推進審議会委員名簿

# 1 第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けたプロセス

<2024 年度>	内容
8月8日	令和6年度第1回豊田市スポーツ推進審議会 ○第4次豊田市生涯スポーツプランの振り返り ○第5次豊田市生涯スポーツプランの策定に向けたスケジュールについて
8月～9月	豊田市の教育に関するアンケート調査 ○対象者：市民、小学生、中学生、保護者、教員、校長・教頭 ○回答数：8,803件
2月13日	令和6年度第2回豊田市スポーツ推進審議会 ○第5次豊田市生涯スポーツプランの方向性について
<2025 年度>	内容
7月15日	令和7年度第1回豊田市スポーツ推進審議会 ○（仮称）第5次豊田市生涯スポーツプランの骨子（案）について
8月～10月	次期生涯スポーツプラン策定に向けた調査 ○対象者：地域スポーツクラブ、豊田市スポーツ協会加盟団体・チーム ○調査方法：電子アンケートによる調査 ○回答数：81件 ○調査内容：（1）施設利用について （2）団体の課題について （3）行政への要望について
8月26日	こどもワークショップ ○参加者：9名（小学生4名、中学生3名、高校生2名） ○意見聴取内容：（1）観戦について （2）活動・実践について （3）市の事業について （4）まちの魅力について



<2025 年度>	内容
9月	E モニターアンケート ○回答数：184 件 ○内容：本市ゆかりのアスリート・スポーツチームに関するアンケート
10月30日	令和7年度第2回豊田市スポーツ推進審議会 ○第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）について
11月～1月	パブリックコメント ○内容：第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）についての意見聴取 ○実施方法 ①E モニターアンケート（11月21日～30日） ②パブリックコメント（12月9日～1月9日） ○意見件数（①+②）：計118件
2月9日	令和7年度第3回豊田市スポーツ推進審議会 ○第5次豊田市生涯スポーツプランの策定について
3月	第5次豊田市生涯スポーツプラン完成

## 2 豊田市スポーツ推進審議会委員名簿

(2026年3月時点)

	氏名	所属	任期
会長	伊藤 央二	中京大学	2023年7月1日～現在
副会長	粕谷 浩二	(公財)豊田市スポーツ協会	2022年7月1日～現在
委員	安藤 貴通	公募委員	2021年7月1日～ 2025年6月30日
委員	伊藤 宏志	中小学校体育連盟豊田支所	2025年7月1日～現在
委員	岩月 幸雄	豊田市健康づくり協議会	2017年7月1日～ 2025年6月30日
委員	梅村 郁仁	(株)名古屋グランパスエイト	2019年7月1日～現在
委員	太田 明李	公募委員	2025年7月1日～現在
委員	桑原 大輔	トヨタ自動車(株)	2023年7月1日～ 2024年6月30日
委員	清水 弥生	(一社)豊田市身障協会	2021年7月1日～現在
委員	杉本 由香里	豊田市女性スポーツ団体協議会	2025年7月1日～現在
委員	田口 賢一	中小学校体育連盟豊田支所	2023年7月1日～ 2025年6月30日
委員	谷山 由香利	豊田市女性スポーツ団体協議会	2017年7月1日～ 2025年6月30日
委員	塚本 誠	(株)豊田スタジアム	2021年7月1日～ 2024年6月30日
委員	手嶋 道雄	豊田市スポーツ少年団	2017年7月1日～現在
委員	寺尾 悟	トヨタ自動車(株)	2024年7月1日～現在
委員	西脇 委千弘	(株)豊田スタジアム	2024年7月1日～現在
委員	仁村 保郎	豊田市スポーツ推進委員協議会	2022年7月1日～現在
委員	野尻 雅代	公募委員	2023年7月1日～現在
委員	築瀬 歩	地域スポーツクラブ会議	2021年7月1日～現在

(敬称略、会長・副会長以外50音順)



# 第5次 豊田市 生涯スポーツプラン

発行 令和8年3月 編集 豊田市 魅力創造部 スポーツ振興課

〒471-8501 愛知県豊田市西町3丁目60番地  
電話：0565-34-6632 FAX：0565-32-9779